

環境研究所紀要第8号：目次,投稿・執筆要項,奥付

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1045

武蔵野大学環境研究所紀要

第 8 号

目 次

「地域エネルギー自治」のあり方 ～その意義と課題～	武 山 尚 道	1
小水力発電の実現に向けた日野市民の取り組み	塩 澤 豊 志	21
SDGs持続可能な開発目標へのアプローチと参画	長 岡 素 彦	35
2030アジェンダ・SDGsを理解し、自分事化するためのワークショップの 実践6つの事例と自分事化のフェーズ	村 山 史 世 石 井 雅 章・陣 内 雄 次・高 橋 朝 美 滝 口 直 樹・長 岡 素 彦・村 松 陸 雄	47
町家の活用に向けた実測調査の手法に関する考察 ー岩手県遠野市の旧呉服店での活動を事例にー	伊 藤 泰 彦	67
旧西本組本社ビルとあしべ屋妹背別荘の台風21号被害	西 本 直 子・西 本 真 一	79
ミャンマーにおける木造建築の屋根について	佐 藤 桂	91
乳酸球菌 <i>Enterococcus mundtii</i> QU 25 の Phosphoketolase活性化機構の解析 ー酵素タンパク質リン酸化の可能性の検討ー	河 瀬 泰 子・田 中 寛・門 多 真 理 子	105

THE BULLETIN
OF
MUSASHINO UNIVERSITY
Institute of Environmental Sciences

No.8

CONTENTS

An Argument over Energy Policy based on Regional Autonomy -For or Against-	TAKEYAMA Hisamichi	1
Citizens' Movement in Hino for Actualization of Small-Scale Water Power Generation	SHIOZAWA Toyoshi	21
Citizen's approach and Citizen participation to Sustainable Development Goals	NAGAOKA Motohiko	35
Case Reports of Workshop focused on Facilitating a Sense of Ownership within the 2030 Agenda for Sustainable Development and SDGs	MURAYAMA Fumiyo ISHII Masaaki / JINNOUCHI Yuji / TAKAHASHI Asami TAKIGUCHI Naoki / NAGAOKA Motohiko / MURAMATSU Rikuo	47
A Study on Approach of Measurement Survey for Reuse of Townhouse - Case Study of Activities in Old Dry-goods Shop in Tono-City, Iwate -	ITO Yasuhiko	67
Former Head Office Building of Nishimoto-gumi and Ashibe-ya Annex Damaged by the 21st Typhoon in Japan, 2018	NISHIMOTO Naoko / NISHIMOTO Shinichi	79
On the Roofs of Myanmar Wooden Architecture	SATO Katsura	91
Analyses of Activation Mechanisms of Phosphoketolase in <i>Enterococcus mundtii</i> QU 25 —Examination of Protein Phosphorylation—	KAWASE Yasuko / TANAKA Kan / SHIMIZU-KADOTA Mariko	105

武蔵野大学環境研究所紀要投稿・執筆要項

1. 目的

武蔵野大学環境研究所紀要(以下「紀要」という)は、武蔵野大学(研究所・大学院を含め以下「本学」という)の教員および大学院学生等の研究成果(以下「論文」という)を年1回公表することを目的とする。

2. 投稿資格

- (1) 紀要に投稿できる者は、①嘱託・客員・非常勤を含む本学教員・研究員ならびに大学院学生・研究生、②本学関係者で紀要編集委員会(以下「委員会」という)が認めた者、③委員会が投稿を依頼した者、とする。なお、以上の原則に該当しない場合は、委員会が判断する。
- (2) 前項②の「関係者」とは、大学院を修了・退学した者で本学に提出した修士論文・博士論文に関わる成果を発表しようとする者、および本学の研究活動と密接に関わる成果を発表しようとする者(共同研究の相手方など)、とする。なお、修士論文関連の投稿は論文提出後1年以内、博士論文関連の投稿は論文提出後2年以内に限る。
- (3) 大学院学生・研究生および(1)項②の「関係者」は、事前に指導教員または担当教員の承認を得たうえで、当該教員を通して投稿申し込み、原稿提出、校正刷りの受け渡し等を行う。
- (4) 論文は未公開で和文または英文によるものに限る。なお投稿は1名につき1編とするが、筆頭でない共同執筆者となる場合は複数の投稿を認める場合がある。また筆頭でない共同執筆者の範囲は、論文への相応の貢献が認められる限り、特に制限しない。
- (5) 投稿者は、共著者も含め、投稿論文が電子化され、広く一般に公開されることを前提に、著作権・肖像権等が処理済みであること。

3. 年間スケジュール

- (1) 論文の投稿申し込み期限は毎年7月末日、原稿の提出期限は10月末日とする。
- (2) 紀要の刊行は翌年3月とする。印刷仕上がりは原則として白黒となる。

4. 投稿要領

- (1) 原稿は、完成したものを、電子記録媒体と出力原稿(2部)の両方で提出する。
- (2) 原稿(和文)はA4判用紙(縦置き)1枚に横書き43字×38行の印字で16枚以内とする。これには、表題から文献リストまで、本文、図、表、写真、抄録等の一切を含む。英文の場合もこれに準じる。
- (3) 和文原稿の表記には、特別な理由がない限り、常用漢字、現代かなづかい、算用数字を用いる。
- (4) 原稿冒頭に約12行分を確保し、①和文表題、②英文表題、③執筆者氏名(和文表記)、④執筆者氏名(ローマ字 or 英文表記)を記載する。なお、冒頭頁の脚注となる執筆者情報は委員会で編集する。
- (5) 図、表、写真の挿入箇所は十分な誌面余裕をもって指示し、これらの原稿は、1件/頁の印刷が可能な形式で別ファイルに格納する。なお、イメージファイルについては十分な精細度を持つものに限る。

5. その他

- (1) 論文は無審査を原則とするが、掲載の適切性に疑義がある場合は、委員会の指示にしたがうこと。
- (2) 校正は2回、委員会を介して実施する。校正時に大幅な変更があった場合は、掲載を拒否できる。
- (3) 抜刷は30部までは無料。それ以上を希望する場合は30部超過分の費用は執筆者負担となる。
- (4) 論文の著作権は執筆者に帰属する。ただし、紀要の刊行により公表された論文について、本研究所は成果公表目的の範囲内で複製、翻案、公衆送信、リポジトリ(電子アーカイブシステム)等の権利を保有する。

武蔵野大学環境研究所紀要編集委員会

委員長 一方井 誠治

委員 門多 真理子、伊村 則子

武蔵野大学環境研究所紀要 第8号

2019年3月1日発行

編集 武蔵野大学環境研究所紀要編集委員会

発行 武蔵野大学環境研究所

〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3

電話 03-5530-7312 (教学事務部学務課)

印刷 株式会社 創文

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 13-1

電話 03-5643-3321
